

第172回 友の会 宇治川のほとりを歩く

～山峡に初秋の色を見る

日時 2019年9月22日(日)  
場所 京都府宇治市  
宇治橋から天ヶ瀬へ  
天候 曇り  
参加者 一般36名 スタッフ20名  
合計56名



台風が近づいてきており、お昼過ぎから雨が降ることも心配されましたが、最後まで雨に降られることなく観察会を終えることができました。ルートは京阪宇治から宇治上神社、大吉山を通り、興聖寺琴坂へと下り、天ヶ瀬つり橋、白虹橋を渡り川沿いを戻りました。川沿いの道にはハゼランがたくさんあり、「三時ごろになると咲くのでサンジソウとも呼ばれてるんですよ。帰るころには咲いてると思うので楽しみにしてくださいね。」と話をしながら歩きました。蕾しか見たことのない参加者の方もおり、花を見るのを楽しみにしているようでした。



世界遺産の宇治上神社を通り、大吉山へ

展望台付近では餌置き場がありヤマガラ姿を見ることができました。ヤマガラは秋になると冬に備えて貯食することで知られており、忙しそうに餌場を行き来していました。

大吉山に向かう途中、クサギの花はほとんど終わり、赤い萼と青い実が目立つようになっておりとてもきれいでした。ヌスビトハギも花より実が目立つようになり、季節の移り変わりを感じました。ところどころ枝付きのドングリが落ちており、ゾウムシののしわざとの説明を聞くと、「この中にいるの?」と柔らかい殻斗の部分に空いた穴をまじまじと見つめていました。



山を下り早めの昼食をとり店開きを行いました。3時に咲くハゼランをはじめとし、オシロイバナやカラスウリなど特定の時間に咲く植物の体内時計の話、アユの塩焼きとタデ酢の写真から始まったタデ科植物の話、ウスタビガやクスサンなどの繭の話、他にも箒にくっついて海外から来たカマキリの話やハリガネムシの話など充実した店開きでした。個人的に印象に残っているのはウスタビガに関する話で、他の蛾の繭と違い上部がパカパカと開くようになっており、底には水抜きのための穴が開いているらしい。また、繭の横側に穴が開いているものは蛾ではなく寄生バチが出てきたもの、ぶつぶつと跡があるものは雌が出てくるのを待ち構えていた雄とその場で交尾して産んだ卵の跡で雌が出てきた繭であるなど、繭を見ただけでそこまでのことが分かるのかと驚きました。

赤い萼と青い実が目立つクサギ



植物の体内時計の話やウスタビガの繭の話に聞き入りました

帰り道ではエノキに寄生したヤドリギを間近で観察しました。生え際が分かるほど近くで見たのは初めての人が多かったようで、説明を聞きながら興奮した様子でした。伐採などにより少なくなってきた貴重な植物であることを伝えると驚いた様子でした。三時を過ぎ、川沿いには可愛いピンクの花が続々と咲き始めていました。徐々に和らぐ暑さとともに目でも秋を感じられる観察会になったと思います。(辻)



ヤドリギの実

☆生き物たちの不思議☆

花は時計を持っているの？

午後3時頃開花するハゼラン、  
午後4時頃開花するオシロイバナ。  
どうして時間を知ることができるのでしょうか。

午後3時、午後4時に咲くメリットは何かしら。

Oshiroybana is called Four o'clock in English.



オシロイバナ



帰る頃にはサンジソウとも呼ばれるハゼランが咲いていました